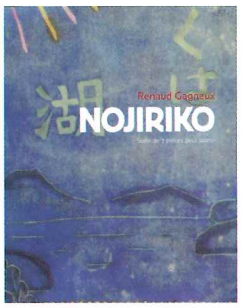
仏現代作曲家・ルノー・ガニュー（1947-2018）
メモリアル・コンサート
Le Concert commémoratif de Renaud Gagneux

日仏友好 160 年「ジャポニズム 2018」の今年１月に亡くなったルノー・ガニュー氏。日本文化に深い造詣を持ち、日本をこよなく愛したフランスを代表する作曲家です。小林一茶の生誕、終焉の地・長野県信濃町をしばしば訪れ、地元の人たちと交流し、一茶の句につけた俳句曲を作曲しました。これらの作品と 20 世紀の音楽を日仏の音楽家が演奏します。同時にガニューさんに影響を与えた、信濃町の版画作家・池田充さんの一茶の句による版画を映写します。

出演
末高明美（ピアノ）
スタン・ジャック（ファゴット）
東條茂子（フルート・俳句日本語朗読）
マルティーヌ・デュペロン（俳句仏語朗読）
池田 充（版画）



ルノー・ガニュー曲楽譜
NOJIRIKO H.Lemoine社

池田充 一茶の俳句版画

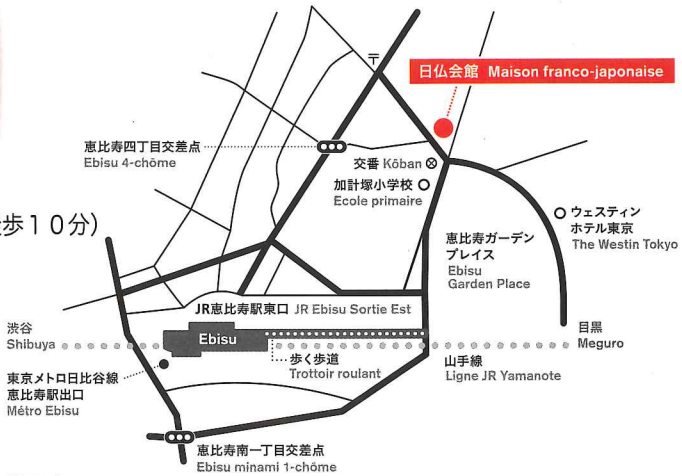
プログラム
ルノー・ガニュー：６つの一茶の俳句によるピアノ曲（2007）
ルノー・ガニュー：小林一茶とローラン・マブソンの俳句による７つのピアノのため組曲 NOJIRIKO（2009）
宮城道雄：春の海（ファゴット・ピアノ）
武満徹　：エア（遺作）（フルート）
ピアソラ ：オブリヴィオン（ファゴット・フルート・ピアノ）

プーランク：即興曲第 15 番エディットピアフに捧げる（ピアノ）
　　フルートソナタ（フルート・ピアノ）
クーパー　：ジャズ組曲（ファゴット・ピアノ）
チック・コリア：トリオ（ファゴット・フルート・ピアノ）

2019 年 1 月 14 日（月・祝）
14 時開演（13 時半開場）

日仏会館ホール
（ＪＲ山手線：恵比寿駅東口恵比寿ガーデンプレイス方面へ 徒歩１０分）

前売り券　2,000 円　　当日券　　2,500 円
学生券　　2,000 円　　日仏会館会員無料



主催：ルノー・ガニューメモリアル・コンサート実行委員会
　　チケット申し込み・問い合わせ　　asuetaka@nifty.com　090-9309-4354（末高）
共催：公益財団法人日仏会館　東京都渋谷区恵比寿 3-9-25　　03-5424-1141
協賛：日本ピアノフォールディング株式会社
後援：在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本

日仏会館

プロフィール

ルノー・ガニュー（作曲）Renaud Gagneux （1947 パリー 2018）

5 歳でピアノを始め 14 歳でコルトーに師事。19 歳でケルンに渡りドイツの現代音楽家シュトックハウゼンのもとで学ぶ。その後パリ国立高等音楽学校にてフランスの現代音楽作曲家メシアンメシアンの薫陶を受け、1972 年に作曲で一位を得る。1970 年にフランスのミュージック・コンクレートの研究グループである GERM に入る。1972 年には GERM を脱退したアンリ・シェッフェールが結成し、リュク・フェラーリやクセナキスも参加していたラジオフランスの現代音楽研究グルー（GRM）に移る。70 年代にはジョン・ケージらとも交流を持ち、当時のパリで最も勢いのある若き現代音楽作曲家の一人として評価される。弦楽四重奏、チェロコンチェルト、オペラ、レクイエムなど多岐に渡る楽曲を作曲。2004 年より数回に渡り日本を訪問、日本の文化芸術に感銘を受け大の親日家となる。芭蕉、蕪村、一茶など 17-19 世紀の日本の俳人に捧げた楽曲を手がけた。楽譜は、デュラン社、H. ルモワンヌ社他多くの出版社から出版されている。

末高明美（ピアノ）Akemi Suetaka

桐朋学園大学音楽学部で三浦みどり氏に師事。卒業後渡仏し、パリ・エコール・ノルマル音楽院入学、ピアノをジェルメール・ムニエ氏に学び、ディプロマ（教授資格）取得。1992 年より長野県黒姫童話館にて、親子で楽しむ「童話の森アフタヌーンコンサート」を開催。2002 年より俳人小林一茶のふるさと長野県信濃町で、「一茶の俳句コンサート」を開始。2007 年 CD「水織音 MI・O・LI・NE」をリリース（レコード芸術準特選盤）。2011 年 CD 第 2 弾「フランス音楽と俳句」（レコード芸術準特選盤）を日仏にて同時発売。2015 年子供のピアノ導入楽譜、日本語・英語・フランス語　たのしくうたおう「わたしのピアノ練習帳」をハンナ社より発売。近年はフランス音楽を中心にソロ・室内楽コンサート数多く行っている。音楽関係の通訳，講座なども行う。洗足学園音楽大学講師。

スタン・ジャック（ファゴット）Stan Jack

1977 年、パリ国立高等音楽院を首席で卒業後、ジュネーヴ国際音楽コンクールで銅賞、トゥーロン国際音楽コンクールで入賞する。 第一ファゴット奏者として、ボルドー・アキテーヌ管弦楽団、トゥールズ・キャピタル国立管弦楽団、フランス国立管弦楽団、ラ・ムール・オーケストラ、パリ・アンサンブルオーケストラで活躍。 また、リヨン国立オペラ（指揮者：ケント・ナガノ）、パリ管弦楽団（指揮者：ロリン・マゼール、ピエール・ブーレーズ、カルロ・マリア・ジュリーニ、ダニエル・バレンボイム、クルト・ザンデルリング、ジョージ・プリーストほか）、ポーランド室内管弦楽団、パリ・オペラ座にも招聘されている。現在は、日本を拠点にクラシック音楽のとどまらずさまざまなジャンルの音楽に取り組み、バスーンの魅力を伝える活動を精力的に行っている。2017 年よりシュライバー・バスーンのブランド・アンバサダー。

東條茂子（フルート）Shigeko Tojo

桐朋学園大学音楽学部卒業。卒業後渡欧しジュネーヴ音楽院にてマクサンス・ラリュー氏に師事。在学中、ジュネーヴ室内管弦楽団フルート奏者として、スイス・ロマンド放送等に数多く出演。同音楽院を 1 等賞にて卒業。帰国後は東京文化会館、東京オペラシティ、浜離宮朝日ホールでのリサイタル、FM リサイタル出演等 、ソリスト、室内楽奏者として幅広く活動、自然な音楽性と透明感ある音色は広く支持されている。また近年は古楽器奏者としての活動にも力を入れている。「東條茂子フルートリサイタル～華麗なるポロネーズ」（ALCD9011）、「French Music for Bassoon」（Pavane ）、「天上のギフト～ 1 日の終わりに聴く珠玉のバロック小品集」（Fontec)(レコード芸術準推薦盤)、「Récréation 」(Skarbo) がリリースされている

マルティーヌ・デュペロン（フランス語朗読）Martine Dupeyron

アンスティチュ・フランセ東京講師、白百合学園中学校講師、外務省講師。カナダ、エリトリア、ハンガリー等で 10 年間仕事に就いた後来日。家族と日本滞在が 20 年を超える。幅広い教養に通じたマルティーヌ・デュペロンのアンスティチュ・フランセ東京での「時事クラス」は好評を博している。近年は「象のババール」（ジャン・ド・ブリュノフ作、プーランク曲）の朗読も行う。6 歳から始めたピアノはこの 10 年間はアマチュアピアニストとして、プーランク・サティー・フォーレ等のフランス近代音楽の演奏を好み、ルノー・ガニュー曲との出会いは新しい発見となる。

池田充（版画家）Mitsuru IKEDA

1942 生。長野高校、中央大学商学部卒。2003 年フィナール国際美術展（仏）にてパリ国立高等美術美術学校版画部教授 M. ポワチエ、並び F. ウオールファールの両氏に一茶句版画「悠然として山を見る蛙かな」が、日仏混交の新手法を用いた作品と評価されグランプリを受賞。翌年同展に於いて同美術学校の A. ハダド教授に「痩せ蛙負けるな一茶これにあり」を奨励賞に推される。又、パリ国立図書館写真版画室に「父ありて曙見たし青田原」（一茶句）と「本道や十戸の豊の秋」（清水基吉句）二点が永久保存される。「現在までにパリのモンマルトルやベルタン・ポワレにて個展を多数行う。